

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス（2024年3月～2024年5月）

日付	場所	できごと
3月30日	自然観察園	ヤマビル吸血被害初確認
4月10日	Y10付近	外来種セリバヒエンソウの抜き取り作業実施
4月19日	Y32付近	キビタキ確認
5月3日	K16付近	コサメビタキの親子確認 来園者から親鳥と巣立ち直後のひな鳥の目撃情報がありました
5月5日	本館前 ビオトープ	アズマヒキガエル上陸 その後13日に研究棟前の人工池でも上陸が確認されました
5月19日	自然観察園	ホトギスさえずり確認 アオバトとともに谷戸にさえずりが響き渡っていました

<イトトンボの勘違い？>

研究棟前の人工池はイトトンボの仲間が間近に観察できます。ターコイズブルーの模様が美しいのですが、図鑑を見ると似ている種類がたくさんあり、同定が難しそうです。4月28日、じっくり調べようと、2匹が連結して植物にとまっているところをカメラで撮影しました。

トンボは交尾や産卵をするとき、オスが腹部の先端でメスの胸部をつかんで連結します。池では連結したまま飛んだり、産卵する姿もよく見られます。今回撮影したトンボも繁殖行動中のペアだと思いましたが、よく見るとなんだか模様が違います。図鑑をみると写真の上は、胸の斑点状の黒斑が特徴のホソミオツネトンボ（アオイトトンボ科）で、下は眼の後ろの紋がつながっているのが特徴のホソミイトトンボ（イトトンボ科）のようです。ホソミオツネトンボは自分と同じ種類のメスと勘違いしたのでしょうか。

トンボは視覚で相手を認識するため、異種間での連結や交尾、オス同士での連結が起きやすく、雑種が生じることもあるそうです。捕まってしまったホソミイトトンボはもがいて抵抗しているようにも見えました。

少し関心を持って生き物を見てみると、自然の世界の不思議なこと、おもしろいことに気づくことができるのだと感じました。



ホソミオツネトンボ(上)とホソミイトトンボ(下) (4月28日)

黄色い花しらべ ～ヘビイチゴ編～

＜自然観察園内で見つけたヘビイチゴの仲間＞

4月から5月にかけて、足元では黄色い花が目につきました。タンポポなどのキク科の植物が多い印象ですが、それと同じくらいヘビイチゴの仲間も目立ちました。今回は野外施設で観察したヘビイチゴの仲間をご紹介します。

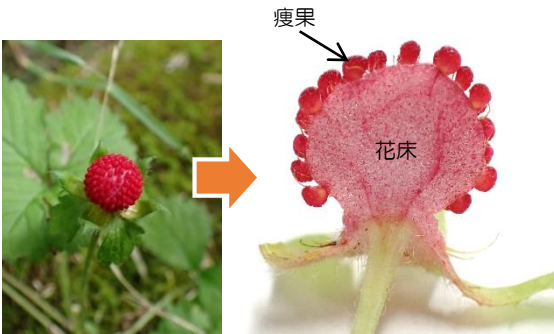
確認できたのはヘビイチゴ、オヘビイチゴ、ミツバツチグリ、キジムシロの4種類です。この仲間はバラ科キジムシロ属の草本植物で、ハート形の花弁が5枚ある黄色い花は一見よく似ています。見分け方としては葉の形がポイントになります。また、花の開花時期や生育場所も少しずつ違ってきます。

種名	ヘビイチゴ	オヘビイチゴ	ミツバツチグリ	キジムシロ
場所	谷戸（Y1～34）	谷戸（Y1～34）	雑木林（K14付近）	雑木林（K2付近）
花	 4中旬～5月上旬頃	 4月下旬～5月中旬頃	 4月上旬～4月下旬頃	 3月下旬～4月上旬頃
葉	 丸みのある小葉3枚	 小葉が5枚	 小葉が3枚	 5～7枚の羽状複葉

＜ヘビイチゴの赤い実＞

上記の仲間のなかで、イチゴらしい赤い実ができるのはヘビイチゴだけです。（ただし、おいしくはありません。）表面のつぶつぶは種子のように見えますが、この粒それぞれが瘦果（そうか）と呼ばれる果実です。果肉のように見える部分は雄しべや雌しべの付け根が肥大した花床（かしょう）・花托（かたく）と呼ばれます。子房ではない部分が肥大してできている実なので偽果（ぎか）といいます。

オヘビイチゴ、ミツバツチグリ、キジムシロは花床は肥大せず、瘦果は赤くなりません。



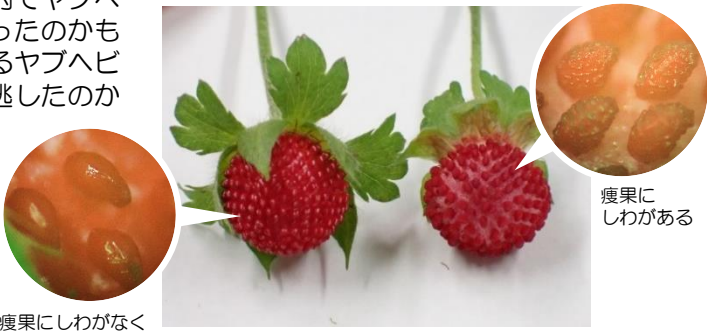
ヘビイチゴの偽果とその断面

＜見つからなかったヤブヘビイチゴの実＞

ヘビイチゴの仲間にはもうひとつ、ヤブヘビイチゴという種類が県内に広く生育しています。ヘビイチゴとよく似ていて、赤い実もできます。ヘビイチゴとの違いは花弁が細長い、小葉がひし形っぽいなどがありますが、見分ける最大のポイントは瘦果につやがあることです。自然観察園内でもヤブヘビイチゴかと思われる花がいくつか見られましたが、実の時期になってもつやのある瘦果が確認できませんでした。

神奈川県植物誌2018には、アイノコヘビイチゴと呼ばれるヘビイチゴとヤブヘビイチゴは自然雑種が紹介されています。花や葉はヘビイチゴとヤブヘビイチゴの中間的な形質を持ち、偽果は発達せずに枯れてしまうため、赤い実は見られないそうです。園内でヤブヘビイチゴと思われたものはアイノコヘビイチゴだったのかもしれませんが、雑種があるのにその親であるヤブヘビイチゴがひとつもないというのも不思議です。見逃したのか、園内にはもう生育していないのか…。来年まで待たなければなりませんが、また花や実の時期には注意して探してみたいと思います。ヤブヘビイチゴを見つけた方はぜひ教えてください。

春の黄色い花は他にもたくさんあるので、黄色い花シリーズ第2弾もいずれご紹介したいと思います。



ヤブヘビイチゴ（左）とヘビイチゴ（右）

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、HPで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

2024年2月～2024年3月の救護実績（鳥類:29件 哺乳類:1件）

救護件数上位種		主な救護原因(人為的要因による)				放野数	
種名	件数	鳥類の原因	件数	哺乳類の原因	件数	鳥類	
メジロ	4	粘着剤(ネズミ捕り等)	11	疥癬症(かいせんしょう)	1	14	
ヒヨドリ	3	ガラス窓等への衝突	4			0	
スズメ	3	ネコ等に襲われる	3				
キジバト	2	交通事故	3				
コアホウドリ	2	釣り針・釣糸に絡む	1				
シジュウカラ	2	罠にかかる	1				
イソヒヨドリ	2						



ネズミ捕りの粘着剤に絡んだ状態のシジュウカラ

仔タヌキ? イヌ? ネコ? 間違った保護をしないために特徴を知ろう

5月から8月頃にかけて、タヌキの赤ちゃんが仔イヌや仔ネコと間違えて保護されることが多くなります。でも、そのほとんどは親タヌキからすると「赤ちゃんが連れ去られた!」という誤認保護になります。

また、触ってしまうと更なる悲劇が……
ヒトのにおいがつくると多くの哺乳類の親は嫌がると言われています。見分けづらい幼獣の違いを知って触らないようにしましょう。

仔タヌキはどれだ?

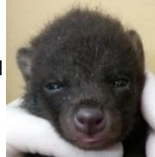
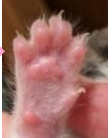
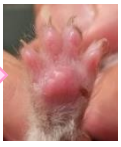


※ 仔イヌか仔ネコかな?と思ったら、**触らずによく観察しましょう!**

タヌキの子育てを知ろう

タヌキは1頭～5頭を出産し、軒下や側溝などを利用して子育てをしています。仔タヌキだけで親タヌキを待っている時や親タヌキが人間に驚いて一時的に逃げた後に発見されることが多いです。動物の赤ちゃんが鳴いていたら心配になると思いますが、決して触らずに立ち去ってください。

比べてみよう

	仔タヌキ	仔ネコ
顔	額や口のまわりが白い場合もある 	
眼	全体的に真っ黒く見える 	縦長の瞳孔 
鼻	丸い鼻 	三角形の鼻 
前足	 	5本指は同じ 肉球の形がちょっと違う 
後足		4本指は同じ 

仔タヌキは
成長過程で色が変わるよ

生まれて間もない頃は
全身が真っ黒



少し成長すると脇から背中にかけて
白い線が濃くなってくる



コアホウドリの受け入れが続きました

コアホウドリの受け入れが2月から4月に3件続いたので、この機会に過去の実績をまとめてみました。（表1）

＜実績から見えるコアホウドリ＞

海上で生活している大型の鳥類コアホウドリは、台風などの悪天候のときに街中まで飛ばされ、地面で飛べないところを見つけれられることが多いようです。コアホウドリは、水面をはばたきながら助走して風をとらえて飛び立つので、平らな地面の上では飛び立てずに保護されてしまうのでしょうか。

その他に釣り糸・釣り針が原因で救護された記録もあります。プラスチックやゴミを飲み込んで死亡する事例も報告されているのが現状です。

受け入れ実績(全10羽) (表1)

受け入れ年月日	市町村	救護原因	受付時体重	転帰
1993/1/8	藤沢市	不明	記録なし	放野
2004/12/5	大和市	悪天候	2,150g	放野
2008/5/21	平塚市	悪天候	1,500g	死亡
2008/5/21	茅ヶ崎市	悪天候	記録なし	死亡
2013/5/31	平塚市	釣り糸・釣り針	1,950g	放野
2015/9/10	小田原市	悪天候＋衝突	1,400g	死亡
2022/4/8	大磯町	不明	2,180g	放野
2024/2/10	大磯町	不明	2,300g	放野
2024/3/19	大磯町	悪天候	2,300g	放野
2024/4/5	大磯町	不明	2,500g	放野

基本データ

種名	コアホウドリ (アホウドリ科)
生息地	北太平洋、小笠原諸島など
食性	イカ類、魚類など
環境省レッドリスト	絶滅危惧ⅠB類※

※ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの



2024年2月10日に受け入れたコアホウドリ

さて、2月10日に保護されたコアホウドリは、点滴、アジの強制給餌を行い、体重が2,500gまで増え、回復傾向がみられたことから、羽の撥水性が維持されているうちに放野する方が良いとの判断に至り、受け入れから3日後に放野しました。

海へ...

外洋や長い距離を助走できるところで放野することが望ましい鳥ですが、今回は沖に連れていく船を確保できず、やむを得ず崖から海への放野となりました。

それでも約2mもある翼を力強く広げて崖を蹴って飛翔！風をとらえて空高く飛ぶ姿はまさに圧巻でした！

ここからスタート！

助走をつけて～

崖を蹴って～

飛んだ！

風をうまくとらえて

まるでパラグライダーのように優雅に飛んで行った

！くちばしに注意！

くちばしの先端がとても鋭く尖っているため、弱っているように見えても、抵抗してかんでくる場合があります。かまれると、皮手袋でも貫通する程の強さがありますので、ご注意ください。